

テーブルの上の

ドリトル



## 【金色だったスプーン】

---



磨かれるのを忘れられたかのようにくすんでしまったこのスプーン、かつてはまばゆい光を放つ黄金色のスプーンだったそうです。

とある魔女が魔法を使うための杖変わりに振るっていた品物で、本当に魔法が使えたり、料理の味付けが上手になったり、薬の調合が失敗しないようになったり、まさにスプーンの中のスプーンでした。

今のようにくすんでしまったのは、黄金色のスプーンとフォークとナイフが揃っているときに使える魔法を使ってしまったからです。

それは"愛する人をどんな危険な場所からでも、無事ディナーに間に合うように生きて帰ってこさせる"という魔法でした。魔法を使うと黄金色とその人の魔力+ $\alpha$ を失うかわりに、妖精の王と8人の兵隊が助けに行ってくれるのです。

このスプーンを譲ってくれた前の持ち主は、愛する人の名前を呼ぶための声を失ってしまいました。ですが、今も夫婦2人で幸せに暮らしています。

## 【異泳魚の歯ペン】

---



いつ外気が人間の体温を超えるかハラハラするこの時期は、暑中見舞い、残暑見舞いのハガキや手紙を書く機会が多いです。受け取った人が少しでも涼しい気分になってもらうために、天然鉱物顔料を溶かして作った碧色のインクを使ってはどうでしょうか？そして、その色のインクを使って文字を書くのなら、このテーブルの上にあるペン立てにもさしてある『異泳魚の歯ペン』が一番です。

このペンは、多種多様のキノコや植物が杯を形作るように絡み合っただけ出来た不思議な湖に生息している異泳魚の歯でペン軸からペン先まで作られています。しかも加工されたペン先はガラスペンのように透明になるので、今年工芸品として認定を受けました。

このペンをオススメするのは工芸品だからではありません。ごく希ですが、このペンを使って文字を書いた紙に夏季の間だけ異泳魚の稚魚が住み着くことがあるんです。文字の中を泳いだり跳ねたり.....なんとも不思議な光景です。

## 【互いのツバサ】

---



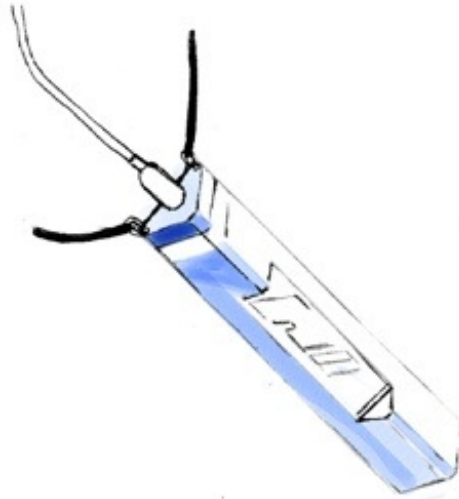
今、セルフクラフトアクセサリショップ『One Thousand words』で買ってきた革紐ペンダントを作り終えたところです。今回は赤みがかった銀色の翼細工と青みがかった銀色の翼細工が付いたペンダントが2つできるペアセットでした。赤みがかった銀色の翼細工には太陽光石の天然鉱物顔料が、青みがかった銀色の翼細工には月光石の天然鉱物顔料が練り込まれていて、太陽光や月光を一定時間吸収すると翼細工が淡い光を纏うそうです。

何でも、「生涯を全うすると羽1枚1枚が鉱石化する絶滅したトリビト族に存在していた、互いの片翼を生やして生まれた双子」をモチーフにした.....と言っていました。

今日蠶月の19日は、羽の鉱石欲しさによる密猟によって絶滅してしまった彼らの冥福を祈る日でもあります。今日はこのペンダントに太陽光を吸収させて、淡い光をキャンドル代わりに30周年イベントへ参加してこようと思います。

## 【アイスプレイヤー】

---



テーブルの上に置いてあるヘッドフォンがささった小さな三角柱の容器は、『アイスプレイヤー』と言う名前が親しまれている特別な氷を記憶媒体とした音楽プレイヤーです。何でも、氷音楽業界秘伝の錬成粉を混ぜた水を振動させることで音楽などの情報を録音し、すぐに凍らすことで情報を保持、それを『アイスプレイヤー』が適度に氷を溶かしながら情報を正確に再生していきます。

でも、このプレイヤーが正確に情報を再生させるのは一度だけ。一度完全に溶けきって水に戻ると、水と一緒に保持されていた情報が混ざってしまい、再び凍らせて再生しても全く違うものに変貌してしまうそうです。

「だから、偶然によって生まれる名曲があるし、曲が混ざることを楽しんで曲を作る音楽家も、この世界にはいるのさ」

と音氷屋の店主が笑いながら話してくれました。

最近の心配事は、何度でも性格に再生できる『ジェルプレイヤー』に売り上げが負けていることだとか……。

## 【森の花火】

---



花火と聞くと夏の風物詩だと誰でも思うかもしれませんが、私が持って帰ってきた花火は『秋を告げる花火』なんです。

テーブルの上に置いてある瓶、この中に入っている赤、青、緑の木の実がその花火です。

この木の実は、処暑から白露の間だけ開放される『禾乃登前楽園』に生息しているヤルマウーバというクワ科の植物から採取でき、花火師達の秘伝の技によって種の中に炭素や硝酸塩などを発生させます。後は、極小の穴を開けて種の中に炎色反応用の薬品を入れれば花火の「星」に、ヤルマウーバの支柱根を使った紙製の器に「星」を配置していくと、ようやく見慣れた花火へと変身を遂げます。今瓶の中に入っているのが花火の「星」になった木の实です。

いつもの花火に比べると炎色反応の色が若干薄めですが、秋の始まりを告げるには丁度良いかも……？

ちなみに、木の実を「星」にしないで薬にすると、気管支炎や咳止め、糖尿病、下痢などに効果があります。

## 【魔法の杖】

---



親指と人差し指で摘んでいる二本の小さな杖は、細部まで丁寧に作り込まれている立派なものです。これが人形用のアクセサリっていうんだから、今時のオモチャってスゴイと感心してしまいました。何でもこの杖を作った細工師の方は「魔法使い」と周囲から尊敬されていて、こんな小さなものに仕掛けを施すのが得意なんだそうです。

帰ってきてから、さっそく説明書を読んで仕掛けを動かしてみることにしました。それで親指と人差し指で杖を摘んでいるわけです。体温で杖を暖めて生体電流を蓄積してあげると杖の先に付いている飾りが動き始めました。一つは飾りとして付いている翼が大きく羽ばたきだし、もう一つは飾りと長短様々な毛のようなファイバーケーブルが開ききると輝き始めます。

灯りを消して確かめると、光っている方も翼のような形を作っていました。「魔法使い」と呼ばれるのも、これなら頷けます。

何だか、持たせる人形が欲しくなってきました。

## 【真夏の雪の女王の贈り物】

---



見た目は見事なガラス細工が施された器に入ったかき氷ですが、何と雪の女王からの贈り物なのです。

雪の女王ですから、冬の季節以外は避暑の王宮で日々を過ごしています。本を読んだり、冬でも育つ野菜や果物を育ててみたり、動物たちの世話をしたり。いつものような日々を過ごしていた真夏のある日、女王様は突然ある決意をしました。

「夏のこの暑い時期にお店を出せば、国営資金の足しにできるわ！！」

そう言った次の日には、昼はかき氷を主体としたカフェ、夜は氷を入れたお酒やフローズンカクテルだけを出すBARになるお店「雪の女王の贈り物」をOPENさせます（もちろん、夏季限定OPENということで...）。

きっと、全世界のお姫様、女王様が抱える共通の悩み

『たまには姫や女王という身分を忘れて、違う仕事をしてみたい』

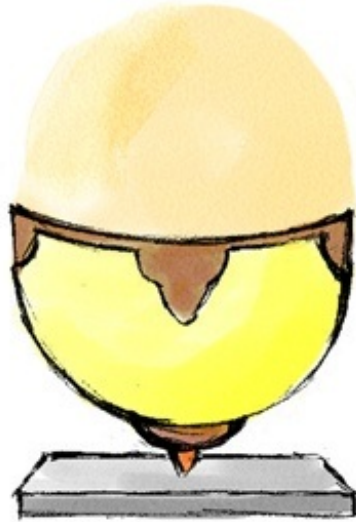
が雪の女王にもあったのかもしれませんが。

肌がすごく白いウェイトレスを見かけたら、きっとその人が雪の女王です。



## 【竜のゆで玉子】

---



身体を丸めて居眠りしている竜が彫られているステンレス製のエッグカップにのせられた少し大きな卵。実はこれ... 竜の卵なのです。

竜の卵を調理する資格を持っている唯一の料理人ミツバ・ロクが、「この卵は孵化できない」と竜の皇帝直々に見定めた卵を受け取って茹でたゆで玉子。普段は竜族やリュウビト族にしか販売しないこのゆで玉子を、本日は特別に売っていただきました。茹でるときに味を染み込ませるので、そのまま殻を剥いて食べるのが一番美味しい食べ方だそうです。

.....

.....

...

本当のところは、リュウビト族が経営している洋菓子工房『ドラゴンズ・ハイ』の新作ケーキ「エッグ」でした。ホワイトチョコでコーティングした固めのパイ生地を玉子の殻にみたてて、中にはその日によって変わるスペシャルケーキが詰まっています。大きさは小、大の2種類のみ。大の方には竜のフィギュアもケーキと入っていて、全種類集めた人には秘密のオマケが.....

## 【金魚姫と銀魚姫】

---



お皿の上に1つだけ乗せてある、透き通った薄い桃色をした小さいドーム状の和菓子を見ると、つい2時間前の余韻に浸ってしまいます。

実は仕事の帰りに「想楽（ソーラ）」という女性シンガーが開催したライブへ行ってきまして……。彼女は色々な民族音楽やエスニック音楽を取り入れたグローバルミュージックを演奏するのですが、魅力はそれだけではありません。なんと、喉歌という歌唱法のように1つの喉で2つの声を同時に出してハーモニーを奏でます。彼女はいつも高音の方を「金魚姫」、低音の方を「銀魚姫」と呼んでいます。なんでも、「小さい頃、川遊びで溺れてしまったときに金魚と銀魚を誤って飲み込んでしまったから……不思議と」なんだとか。

テーブルの上にある和菓子は、そのライブグッズの1つです。練りこんだ寒天の中に人魚姫に似せて形作られた黄色と白色の餡子が、向かい合っています。ライブ会場で和菓子売るなんて不思議ですよ？

## 【雨足の靴】

---



どうです？この見事なまでに鮮やかな天色の靴！下駄からブーツまでありとあらゆる種類の靴を取り寄せていますが、ウチの商品は天色だけとなっています。どうしてか？

そうですね.....商品のタグをご覧になっていただければお分かりかと思えます。

この靴達は『雨足』と言いまして、人間ではなくて「雨雲専用」とさせていただいています。これが結構な売上げを上げているんですよ。これまでの雨足達は全員素足をさらして雨を降らせていましたから、雨の強さを表現するために強めに足踏みをしたら怪我をされてしまう雨足もいらっしまったんですね。

でも、この靴が登場してからそういった事故もなくなりました。雨の強さを表現するには、まさに“女王様”みたいなヒールを履いていただければ良いわけですから。

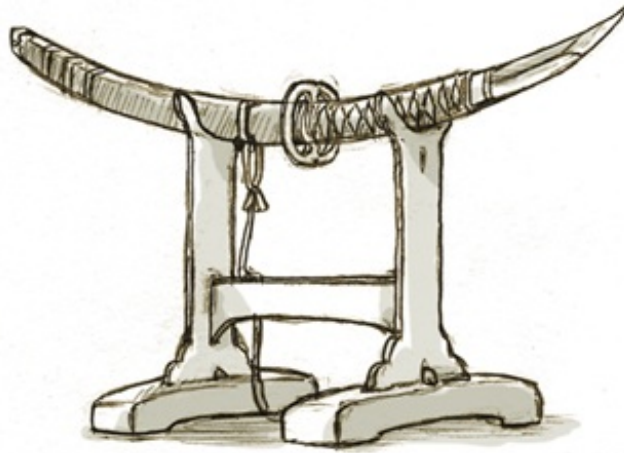
ですが、最近になって『雨足』に関して苦情が来るようになってしまいました。

「雨足がお洒落に目覚めたから、夏になると水没する程の被害になるんだ」

とね。

## 【腹切ノ太刀】

---



ここだけの話ですが、破格の安さで帯刀していても銃刀法違反にならない刀が存在するんですよ。しかも、密かにサラリーマンから好評を受けていましてね。

それが、これ！『腹切ノ太刀』と言います。

何かに似てると思ったお客さんは鋭いですね、デザインの原作は「あずみ」という漫画の主人公が持っている双頭刃の刀なんですよ。

使い方はいたって簡単。例えば飲み会の席で会計をするときにこの刀を抜けば、

「この人が自腹を切ってくれるんだ」

と誰もが喜んでくれることでしょうか。しかし、いくら人が切れないからと言って抜き身で持ち続けると、いつの間にか財布の方が出血多量になってしまいますからね。

そうなったら、刀を地面に刺して相手を見てください。そうすると

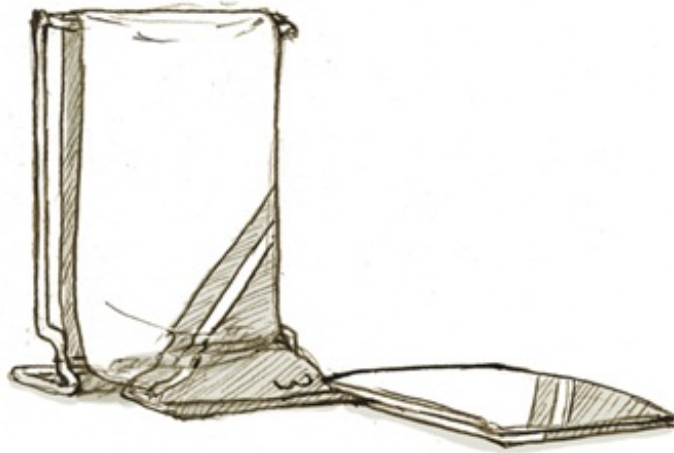
「この人は腹を割って何か話したいことがあるんだ」

と必ず気付いてくれます。後はあなたの話術次第で話がまとまったら、もう片方の鞘を抜いて領収書を半分に折って折半契約の完了です。

まあ、”無理なく正しいご利用ガイドブック”が付いてますので、最初に必ず熟読してください。

## 【肌に優しい尻ぬぐい】

---



街中を歩いていると、たまにズボンの後ろポケットから木綿の平織りの布を垂らして歩いている人を見かけませんか？それこそ我が社のヒット商品。よく手ぬぐいと間違えられますが、これは“尻ぬぐい”と言います。

本当に尻を拭くわけじゃないですよ。

どう使うかという、自分でもどうしようもなくなって投げ出したい用事や仕事が出来てしまったときが最大のチャンスです。さりげなく目標の人に近づいて、気付かれぬように尻ぬぐいを首にかけてあげるだけ。後は脇目もふらずに姿をくらませてください。

ある日、首にかかっている尻ぬぐいに気付いた人は誰もがこう言うはずです。

「何で俺があいつの尻ぬぐいをしてるんだよ!？」

ご購入される際は、是非とも1枚だけ買うように心掛けてください。

## 【伝統サイズの太鼓判】

---



そういえば、最近は背中に巨大なハンコを背負った人を見かけなくなった気がします。携帯などと一緒で小型軽量化が進んでいるのですが、この商品に限っては小型軽量化はオススメできません。ベースドラムほどの大きさがこの商品には一番似合っていました。一体どんな商品化かというと、名前は『太鼓判』と言います。

そう、あれですよ。

「○○は俺が太鼓判を押したんだから大丈夫だよ！！」

と出てくるソレです。その人物や品物の質などが絶対によいものであると保証して“ドンっ”と押すわけですから、小型軽量化しちゃいけないという意味がわかるでしょ？やたらめったらホイホイ押ししてしまったら

「えー、あいつなんでも太鼓判押すからなあ。最近あんまり信用できないんだよ」なんて疑われてしまいます。だから、再通販し始めたウチの太鼓判は前のようにベースドラム型を扱っています。

しかも、今なら太鼓判を背負うための特注バンドもセットになっていますよ。

## 【丸人マークの苦汁】

---



コーヒーショップが近くにないのに、公園や道端などでコップに入っている珈琲のように濃い液体を眺めてため息を洩らしている人達を見かけることが多くなってきました。

この液体、実は飲み物で.....その名も『苦汁』といいます。

ええ、そう『苦汁をなめる』という言葉で有名なあの苦汁です。コーヒーだったらカフェインが入っていますし、青汁は苦いけど健康に良い.....。

苦いんだから何か良い成分が入っていると思うでしょ？これにはそんなメリットも効能も一切ありません。本当にただ苦いだけです。

ウチの大事な商品ですから自分でも試飲してみましたら、悶絶した末に天にも昇るような気持ちになりました。でも、毒薬ではありません。本当にただひたすら苦いだけです。

もしメリットや効能を期待したい方は姉妹品の「良薬」をオススメいたします。こちらも悶絶した末に天にも昇るような気持ちになれますが、効果は絶大です。総合漢方薬より効き目がありますから。

## 【そっと届ける風の便り】

---



携帯やインターネットの普及によって、伝えたいことがいつでもどこでも伝えられるようになりました。ですが、ときには手紙のように

「そういえば、あいつ.....どうしてるんだろうなあ？」

って不意に思い出すような、そっと相手にお便りをお届けするサービスを我が社で開始しました。

その名も『風の便り』と言います。

ここ何百年と試用期間中でしたので、誰でも一度ぐらいは気付かないうちに「風の便り」を受け取っているのではないのでしょうか？二十一世紀になってようやくシステムを完成することに我々は成功しました。

使い方は至って簡単です。サービスに加入した後に届けられた植物の葉を1枚摘んでいただき、専用ペンで用件を書いたら専用試験管に入れて窓際に置いてください。数時間で葉が試験管の中からなくなりますので、そうすれば発送完了です。

後は気長に便りが相手に届くのをお待ちください。なにせ風の便りですから、相手に届く時間は確約できません。